



昭和十四年度  
コレラ防疫対策並  
教訓拔萃

梅津部隊軍醫部  
昭和十四年五月二十一日  
製訂部隊衛生部覆寫

岩淵

部本隊部原笠  
14.6.11  
付受

0398

コレ之防疫安負施上特ニ採リタル對策

一、各部隊宿務事項

各部隊之防疫委員ヲ編成シ分担業務ニ従ヒ防疫指導並監督

ニ任シ防疫ノ完備ヲ期セリ

2. 豫防接種ノ勵行

3. 外出禁止

4. 糞便菌檢査ニテ海負施シ保固者ノ檢出ニ努ム

5. 營門前、各生土、炊事、便所其他必要場所ニ於テ手洗(昇水)

又ハクレゾール液)及靴底消毒盤ヲ備付ケ堅ク出入者ノ名出

酸噴霧粉筒等ヲ海負施ス

6. 「イソピレス」燻取粉等ヲ使用シ燻ノ撲滅ニ努ム且發生防止ノ

爲石油乳劑ヲ撒布シ各生土ハ最重ナル防燻裝置ヲ施ス

ク便所、埃溜、下水等ノ清掃並消毒殊ニ上圍後ノ石灰撒布ヲ

勵行ス

(/)

0399

8. 炊事場ハ防蠅消毒裝備ノ完備シ殊ニ食事前分配時ハ防蠅ニ努ム
9. 作隊行動部隊ニ對シ半煉齒磨鑼等ヲ利用シ之ニクレソール也綿ヲ  
ハレ各人ニ携行セシメ食事前及上圍後等手指ノ消毒ノ勵行セシム
10. 入浴場ニ肛門消毒用藥液ヲ備付ケ入浴前肛門部ノ消毒ヲ毎員  
施セシム
11. 井水ノ「クレオールカルキ」消毒及井戸粹ノ改造若クハポンプ式ニ改造シ  
汚水浸入ヲ防止ス
12. 食器ハ毎食後煮沸消毒ヲ勵行ス
13. 副食物ハ衣糧廠ヨリ受領スルヲ原則トスルモ現地調辦ノ場合ハ  
特定ノ商人ヨリ納入セシメ野菜類ハ監視ノ下ニ殺菌ナル「クレール  
カルキ」消毒後搬入セシム
14. 屢々健康診断ヲ毎員施シ患者ノ早期發見ニ努ム
15. 個人衛生思想ノ普及向上ニ努メ生水宝果ノ飲食ヲ禁シ手指ノ  
消毒、身体保清ニ努メ含嗽ニハ煮沸水ヲ使用セシム

16. 早期受診ノ勵行

17. 衛生思想ニ乏シキ者ノハ使用セサルヲ本則トスルモヒムヲ得サル者ハ  
常備トシ檢便豫防接種ヲ行ヒ構内所定ノ場所ニ宿泊セシテ常  
ニ清潔整頓ヲ監督ス

18. 疑似患者発生ノ場合ハ其ノ原因誘因感染経路、發病前ノ行動  
等ヲ精査シ其ノ病源ヲ排除スルヲ第一義トシ第十四師團ニ於テ  
ハコレヲ調査委員ノ編成シテ徹底シテ期セリ

19. 患者發生ノ場合ハ直ニ患者ヲ隔離ストモ茲ニ病源汚染ノ疑アル人員  
ノ隔離並汚染場所及物件ノ消毒ヲ最ニス

ニ 特殊部隊安員施事項

20. 兵站ニ在リテハ外來患者多數ニシテ部隊汚染ノ恐大ナルヲ以テ診斷  
所ヲ營門前ニ設置シ疑ヒキ患者ノ入門ヲ阻止ス

21. 兵站ニ於ケル外來給與者ノ食事令配所ハ炊事場ヨリ遠隔セル  
場所ニ設置ス

(2)

0401

22. 患者及死体ノ急速運搬ノタメ兵站及檢疫所ニ自動貨車ヲ配属  
 して輸送途中ノ苦体悪化及病毒蔓延ノ防止ニ努ム
23. 衣糧廠ニ於テハ特ニ炊事場食糧製造工場其他各室ノ防護  
 設備ヲ充實備シ食糧占製造(パン・豆腐・屠肉)供給所ノ監  
 視及指導ヲシ嚴ニス
24. 各隊ニ補給スル野菜類ノ購買ニ當リテハ特ニク「クロー」ルカキ「消」マラ嚴ニ  
 シ患者發生地ノモノノ購買ヲ絶對ニ禁メシ又鶏卵殻ニ「花」アルモノ及卵白  
 ノ白濁セルモノハ總テ棄テ棄ス
25. 衣糧廠炊事場味噌工場・豆腐工場・製パン工場ニ使役スル支那人ハ  
 一切通勤ヲ禁メシ廠内ニ宿泊セシメ日々ノ健康状態ヲ監視ス
26. 停車場ハ流行病ニ對スル防疫上ノ重要ナル閉門ナルニ鑑ミ移動檢  
 疫班及停車場檢疫班ヲ編成シ乗客ニ對スル檢診消毒及豫  
 防接種ヲ實施ス
27. 軍ニ於テ設置直セン檢疫班ノ編成左ノ如シ

地	名	將	校	下士	官	兵	捕	警
新郷固定検査班			=		=	=		
彰徳			—		—	五		
石家荘			=		=	一五		
正太驛			—		—	四		各々班固定検査班ヨリ 分世
新郷—彰徳移動検査班						各四		移動検査班ニテ班編成
彰徳—石家荘						各一		各回

各師團ニ於テノ編成セン検査班モ概ネ右ニ準ル

28. 各都市ニ於テハ交通要所ニ検査班ヲ設置シ交通者ノ統制検査  
消毒豫防接種等ノ必要施ス

29. 主要停車場ニ於テハ飽迄徹底的消毒ヲ必要施スルトモコレヲ流  
行状況ニテ防法ノ「ホスター」ヲ掲ケ若クハ「コレ」防疫ニ関スル注  
意書等ヲ支給シ防疫觀念ノ養成ニ努ム

30. 防疫機関ト鉄道側ト提携シ消毒設備及外ノ場所ヨリノ出入

ヲ禁ホスル如ク鉄條網ヲ設置シ驛構内出入者ヲ制限シ且見  
送リヲ禁ス湯釜ノ補給ヲ潤澤ニシ便所其他衛生施設ヲ充  
備セシム

31. 軍防疫給水部ハ各師(混旅)團ノ給水器材ヲ整備セシ外  
コレヲ水系傳染防疫ノ目的ヲ以テ給水場ヲ開設シ特ニコレ  
ニ患患者多ク發部隊宿營地井水木質不良部隊ニ重點ヲ  
置キ無菌濾水ヲ配給セリ

32. 野戰防疫部ハ發生前コレヲ清殺菌集ニ努ム且調査検査  
消毒ニ支障ナキセシ諸材料ノ集積ニ努ム

33. 野戰防疫部ハ軍隊連者健康者旅行者持客並有及地方  
民ノ菌検査ヲ實施セシ外病源探索ニ重點ヲ指向シ常ニ  
敵隣邊野的工作ヲ顧慮シ井水果菜野菜不潔等ノ菌検査  
ヲ實施セリ

34. 野戰防疫部ハ軍隊ノ防疫指導ニ任セン外特務機關宣撫班支

那側縣公署警察局長ト提携シ地方防疫指導ニ任シ「ホスター」パン  
フレット」等ヲ調製シ防疫宣傳ニ努ム

35. 「コレラ」病院ニハ重症患者ハ健康隔離室等ヲ設ケ各居室ノ交  
通ヲ遮断シ看護者ハ專屬トシ段内感染ノ防止ニ努ム

36. 野戰衛生材料廠ハ防疫用材料並ニ療用材料ノ補給ニ任シ  
タル外消毒ホソプ並檢査器具材ノ補給困難ナリレテ以テ或ハ現  
地調製ニ依リ或ハ孵卵器等ヲ試作シ第一線部隊ニ補給セリ  
37. 各佔領地域内都市ニ於テハ軍部、自支人ヨリナル防疫委員會ヲ  
設立シ軍隊防護上地方防疫ノ先聲ヲ期ス

38. 支那側督軍軍隊隊長以下幹部ヲ集中シメ檢病的戶口調  
査ノ勵行、市内共同便所ノ清掃、塵埃ノ燻却、搬出不良飲  
食品ノ販賣取締等ヲナス

39. 新聞(日支)ニ虎疫予防ニ関スル注意流行状況等ヲ掲載シ或ハ  
注意書「ホスター」等ヲ配布シ本病豫防ニ関スル注意ヲ喚起ス

(4)



40. 憲兵隊ハ料理並組合飲食店、カフェー、組合並業者ノ集居セシメ軍隊ノ指下ニ基ク防疫方針ニ並具体的方恒ヲ開陳指導シ且市内並家ヲ増加シ之カ取締ニ任ス  
此地方側甚者發生ノ場在ハ同居人並出入者ノ隔離、家屋消毒及周圍ノ交通ヲ遮断ス

### 「コレラ」防疫實施上得タル經驗並教訓

「コレラ」防疫委員會ハ毎日若クハ隔日開催シ施設改善其他實  
施上ノ意見ヲ開陳セシメ自戒自肅ニ努ム部隊長ハ時ニ列布シ防  
疫軍紀ノ嚴小締セザムルヲ要ス  
各將兵ノ衛生思想並防疫軍紀ヲ更ニ向上際小締スル要アリ殊ニ將  
校ニシテ場下ヲ監視シ又ハ情毒ヲ嫌忌スルヤノ感ヲ懷カシムル者  
多シ宜シク將校ハ防疫ノ核心トナリ卒ニ先垂範以テ部下ノ  
教訓ヲ指導スニ任スルヲ要ス

3. 指導機関之變化シ實施者之ミテ年續上ノ煩鎖ヲ除去スルヲ要ス  
 例ハハ參謀部軍醫部整備隊等ヨリ各々異リタル指不アリ又  
 通報之苦等重複煩鎖ヲ除ク爲ナリ  
 4. 常時公用外本スルモ或ハ連絡等ハ一定ノ場所ニ隔離シ健康者  
 ト混淆セサル如ク計畫スルヲ可トス  
 5. 衛生思想ヲ之レキ活カハ常備トシ檢便豫防接種ヲ行ヒ構内  
 所定ノ場所ニ宿泊セシテ常ニ清潔整頓ヲ監視指導ノ要アリ  
 6. 部隊轉進ニ當リ各師團殘置部隊即虛弱者並荷物監視者  
 等ハ岸下獨旅行者ハ責任者下級若クハ監督者無キ等ノ爲所  
 疲軍紀ノ最正ヲ欲キ患者多發シ防疫上ノ懸トナリレ經驗ニ  
 鑑ミ有カナル責任者ヲ附スルヲ要ス  
 7. コレシテ流行ノ經驗ヨリ宿泊地ハ支那人ト雜居ヲ避ケ支那人ハ一定  
 結果在位セシムルカ要スレハ市外ニ「バラック」建兵舎ヲ新造シ防  
 疫ノ先登ヲ期スルヲ要ス

(3)

0407

8. 支那部格宿營に際し支那ト連繫ヲ密ニシコトニ發生ナキ部格ヲ定レ且自隊ニ於テコレニ患者ヲ調査ラ最ニスルヲ要ス部格ノ調査ヲ怠リテ患者ヲ續發セシ部隊アリ注意ヲ要ス
9. コレヲ其他猛烈ナル傳染病流行ニ際シテハ隣接部隊ト連繫スヲ密ニシ發生日時場所及汚染部隊行動年ニ関シ關係部隊ニ急報スルヲ要ス
10. コレニ患者發生ニ際シテハ部隊炊爨ヲ待テ飯盒炊爨ヲ合理的トス
11. 軍命令ヲ以テ驛構内支那行商人ノ出入ヲ替不レタルモ尚通過部隊及單獨旅行者ニシテ該商人ヨリ生果飲食物ヲ購入スルモアリ、方爲特別任務ノ途程ニ對シテ取締ラ最ニスルヲ要ス
12. コレニ保衛者ノ率高キヲ以テ流行時ニハ入虎隔離ノ外豫メ旅行者ノ宿泊所ヲ大々的ニ設備シ各方面トノ連絡ヲ密ニシ檢便未備者ヲ混同セザル如ク設備スルヲ要ス
13. 支那ニテ取扱フ旅行者ヲ指揮者ニ小部隊又ハ單獨旅行者

等ニ對シテハ「防疫ニ關スル注意事項」ハ「ホスター」<sup>1</sup>「コレ」<sup>2</sup>「情報」ノ配布並ニ説示等  
 ニヨリ豫防ノ徹底ヲ期シタルモ深夜到着ノ極度ニ疲労セル場合等容易ニ徹底スルハ「防疫軍」<sup>3</sup>ノ弛緩ヲ來スル以テ宿舎ニ係トシテ防疫  
 係トノ連繫ハ「ヲ密ニシ」<sup>4</sup>「閉居者」ノ監視ヲ頻回ニ緊小編ニセラルヲ要ス  
 必「通過部」<sup>5</sup>ノ宿舎中ニ「將校」用宿舎ヲ建築スルヲ要ス且下士官ノ  
 將校ハ特定ノ兵站宿舎ニ宿泊シ下士官以下ノ「合宿所」<sup>6</sup>或ハ兵營  
 ニ宿泊スルヲ「防疫軍」<sup>7</sup>ノ緊急編期ニ難シ  
 亦「長期」<sup>8</sup>「防疫」ニ當リテハ外出禁止期間兵站部等ニ於テ「最重ナル監  
 督」<sup>9</sup>下ニ「明朗ナル」<sup>10</sup>「酒保」ヲ開設シ又「汽車」<sup>11</sup>通過部隊ノ爲メ酒保物品  
 ヲ「警備」<sup>12</sup>「構内」<sup>13</sup>ヲ「嚴密」<sup>14</sup>スルヲ要ス  
 亦「豫防」<sup>15</sup>「接種」<sup>16</sup>「効行」<sup>17</sup>ニ就テハ「屢々」<sup>18</sup>「注意」<sup>19</sup>セシニ不拘其「病状」<sup>20</sup>ノ「調査」<sup>21</sup>  
 亦「豫防」<sup>22</sup>「接種」<sup>23</sup>「漏者」<sup>24</sup>「一回」<sup>25</sup>「々」<sup>26</sup>ノ「高率」<sup>27</sup>ヲ「示セリ」<sup>28</sup>「將來」<sup>29</sup>「豫防」<sup>30</sup>「接種」<sup>31</sup>「漏  
 者」<sup>32</sup>ノ「甚多」<sup>33</sup>「ヲ期」<sup>34</sup>シ「殊ニ」<sup>35</sup>「醫官」<sup>36</sup>「配属」<sup>37</sup>「ナキ」<sup>38</sup>「小部隊」<sup>39</sup>ノ「接種」<sup>40</sup>ニ「注意」<sup>41</sup>ヲ「要ス  
 亦」<sup>42</sup>「居留民」<sup>43</sup>及「中国人」<sup>44</sup>ニ對シ「豫防」<sup>45</sup>「接種」<sup>46</sup>ヲ「實施」<sup>47</sup>スルニ「當リ」<sup>48</sup>「新」<sup>49</sup>「御」<sup>50</sup>

(6)

0409

- 於テ通行者ニ雅制的ニ實施シタルニ「毎日注射」等ノ序説聽ニ  
 逃避者續出セシモキ經驗ニ鑑ミ實施前之カ宣傳ニ努メ又入  
 門市内通行ニ準備ヲ停止等ノ手段ヲ講シ普及ニ努ムルヲ要ス  
 18. 醫カノ學ヲ無智蒙昧ニ止者ハ往々他人ノ豫防接種定テ護ヲ實實  
 所持スルヲ以テ甚カク準備等ニ際シテハ持ニ注意ヲ要ス  
 19. 轉進部隊及旅行者ノ單ニ檢便及健康診斷ノミヲ以テ旅行ノ許可ス  
 ルハ防疫ノ徹底ヲ缺クノミナラス危險ヲ伴フ場合アリキス一定ノ期間一定  
 場所ニ收容觀察スルヲ要ス  
 20. 後送患者ノ檢便ヲ最ニスルヲ要ス即ち送テ病院ハ完全ナル防疫檢便  
 ヲ實施シテ後送後送ノ收容病院ニ於テハ一定期間ヨリテ觀察室ニ  
 收容檢便ヲ及後送ノ防疫ノ實施ヲ舉テハキテリ  
 21. 「ヨリ」檢便所員ノ注意スルモ義務ニ對シテハ特殊ノ場合ノ除クノ外  
 何人ト雖モ服従スルヲ要ス  
 22. 旅行者ハ檢便證明書及豫防接種證明書ヲ有スル者ニ限り列車

便乗ヲ許可セシモ地方ノハ之ヲ検査ノ煩ヲ避クル爲徒歩ニテハ驛馬  
リタル極度班トキ小驛ヨリ便乗セシ例アリ地方ノ便乗驛ヲ指定シ  
他ノ驛ヨリノ便乗ハ禁止スルヲ要セス

23. 支那在來ノ井ノ汚染セシ易キ現況ニ鑑ミ部隊専用ノ井ヲ設ケ井  
スルカ、ポンプ式ニ改造スルヲ要ス殊ニ降雨後井水ヨリコレ菌ヲ  
証明セシハ實例ニ鑑ミ雨後井水ハ必ス「コロム」消毒後ニ非サレハ  
使用レ得ス

24. 作戦行動中ノ防疫ハ現在ノ如キ防疫給水ノ教習訓練ヲ受ケサ  
レ軍隊並現制ノ給水装置ヲ以テシテハ困難ナリ

瀧水塔ハ尙小型ニ改造シ其配給数ヲ増ヤスルヲ要ス

25. 防疫給水部ヨリ細菌濾水ヲ配給スルニ當リ容器不潔受領後ノ保  
存不注意使用時ノ汚染等々却テ汚水ヲ採取シ危險ナル部  
隊アリテ教習ヲ要セス

26. 防疫給水部ノ車輛裝備負羽ミニテ自動車ヲ借用シテ急造ノ水

(7)

0411

槽ヲ設置シ搬水セリ將來多量ノ濾水ヲ各隊ニ配給シ得ル如ク搬水  
車ヲ増カスルヲ要ス

27. 獨ニエ支隊毎隊ニ「コレ」ト云ハシ一ニ疑似ス。保菌者因名發生セ  
シ際無菌濾水ヲ配給セシ給水開始後第十日自ニ隔離解除シ得ク  
ル由員例ニ鑑ミ防疫給水部ノ編成ヲ修正シ第一線將兵ノ積極的防  
疫ノ完壁ヲ期スルヲ要セス

28. 七支隊ニ水質不良ニシテ各種傳染病同時其跡ヲ絶タレ現況ニ鑑ミ  
各都市ニ上水道ノ施設ヲナスヲ要セス

29. 二級宿舎區ノ防疫ニ関シテハ日支合同防疫委員會ヲ編成シ軍民  
一致シテ防疫ノ徹底ヲ期シ現成ノ中一週渡期ニ在リテハ防疫部兵  
站特務機關ノ要兵隊等トノ連絡ヲ密ニシ軍部監視指導ニ任スル  
ヲ要セス

30. 地方防疫ノ徹底ヲ期スル爲ニ宣傳班檢疫班治療班患者收容班死体  
處理班市街掃掃班ヲ編成スルヲ要セス

以持務機関、信務班縣公署等ヲシテ支那人一般ノ衛生觀念ノ普及及向  
上ニ努メ日支軍民相俟ノ惡疫ノ根絶ヲ期スルヲ要セス

32. コトニ患患者ヲ見ノ場合希見通者又ハ最宜可破言公令長ニ於テ其  
任ヲ以テ監視セシメテ直ニ要セス 通知後放在セルニ爲任意ニ移動し甚  
シキハ夜暗ニ乘リテ逃亡セル場合アリ

33. 支那人ニ於テハ傳染病トシテ不拘何人ノ死亡時其死伴ノ周圍ニ公衆  
人縁者相集リ、飲食長スル民風アリ故ニ其村落ニ患者發生セル場  
合ハ速ニ村落ノ交通ヲ遮斷スルノ要アリ

34. 防疫ノ目的ヲ達成セザル程度ニ住民ノ傳統的風習ヲ遵守スルヲ要ス  
例ヘハ火葬ヲ極端ニ忌避スル中國人ニ火葬ヲ強要セシテ死伴ヲ  
隱匿搬送し甚シキハ夜間河海ニ投入スル等も果敢テ敢テレ不測  
ノ危害ヲ誘致セシ事例アリ

35. 地方民衆者ノ收者ト病者ト汚染者ヲ隔離トハ思ヒタル家屋ニ收容スル  
ヲ原則トスルモ中國人ハ飲食食物ヲ屢ニシ且幼兒又ハ老人ノ患者ニ



ハ隔離者ヲ附添者タラシムルノ必要アリヲ以テ同一場所ニ區劃所  
置スルヲ便トス

36. 地方患者收者病後ヲ設置上レ佳民及患者ヲシテニルカニニ信頼セシメ  
進テ入所治療ヲ受クル如ク人員及諸施設ヲ先令申セシムルアリ

37. 地方防疫ノ支障ヲ期スルタメ特ニ防疫費ヲ支給スル由セアリ

38. 今国流行セシコレラ患者ヲ觀察スルニ見大腸炎若クハ赤痢様症  
状ノ多シ且赤痢ト合併セル症例アリ將來軍醫部教員ヲ徹底シ  
感傷豫防上特ニ注意ヲ要ス

39. コレラ治療ノ經驗上重症コレラト雖モ發病初期ニ治療ヲ加ヘタル  
モノ經過良好シテ第二期即發冷期或ハ假死期ニ於テ初療ヲ加ヘ  
タルモノハ經過不良ナルニ鑑ミ治療班ヲ編成シ初期ニ徹底治療  
ヲ加フルヲ要ス

40. 現規則コレハコレラハ個性ヲ決定スルニハ初發患者ノ場合ニハ「バイス  
エル氏現像検査」度陽性ナル時コレラト決定ストアルモ野戰ニ於テ

48. 野戰豫備病院各班に獨力ヲ以テ國檢査小ヲナシ得ル如ク人員並材  
 料ヲ配属スル爲各班將校下志旨ヲ集存セシメ防疫故ニ有テ實施シ  
 材料モ之付ノ豫定ナリ  
 49. 防疫用材料ハ衛生材料廠ニテ統一補給スル如ク改正スルヲ要ス  
 50. 防疫用並檢査用諸器材ノ蒐集ハ甚シク困難ナリレテ以テ庫  
 房ノ指示セシ如クコレヲ終炮後ハ野戰衛生材料廠ニ返納シ修  
 理車入ヲ完全ニシテ翌年度ニ於ケル防疫ニ支障ナカシムルヲ要  
 ス

(11)

0415

体重ニツリ瓦ノ「モット」ヲ得ル事困難ニシテ且ツ陸軍軍醫畑孝核「コ  
シ」免「疲血情」ハ「溶菌價」ノ明記ナク之カ「檢定」ニモ亦「十數匹」ノ「モ  
ルモット」ヲ要スル「閉」係上「實驗」困難ナルヲ以テ左記「簡易法」ヲ以テ  
「病原性」ヲ「確認」シ得ルト信ス

第一動物ハ「コシ」免「疲血情」ト「檢菌」ヲ「腹腔」内注射

第二動物ハ「建」兼「免」血情ト「檢菌」ヲ「混和腹腔」内注射

第三動物ハ「可檢菌」ヲ「ツイモン」ニ「混和腹腔」内注射

「可檢菌」コシ「ナリトセ」ハ「第一動物」ハ生存シ「第三動物」ハ翌日迄ニ  
「斃ル」

41. 菌種ニ「コシ」ト「及」應ノ「發見」遲クシテ「陰性」ト誤ルモアリ

初發患者ノ「陽合持」ニ「注意」ヲ要ス

42. 「コシ」集團「檢定」ハ「アロンソン」培地ノ「最良」トスルモ「遠藤培地」ニ「

モ」コシ「菌」ノ「發育」一般ニ「良好」ニテ「試ム」ヘキ「培地」ナリ

43. 「果實」野「菜」消「毒」用「塩酸」ノ「稀釋」ハ「之」使用「現地」井水ノ「種類」

ニヨリ「コレ」菌ノ殺菌力ニ甚レキニ差斐アリ例ハ總硬度(徳乙)  
ニレ度内外「コレ」菌ノ含量ニ中ニミラビキノサ水ノ場合局方  
稀塩酸ノ千倍濃ハ殺菌力ナクニリトミラビキ倍濃ハ一分間以内ニ  
殺菌ス

保菌者ハ本國流行ノ經驗ニヨリハ大多數毎日ヲホスレテ陰性トナリタ  
ルモ數例ニ於テハ數ヶ月ニ亘リタル者アリ依ツテ保菌者ノ觀察  
ニ特ニ注意シテラ要ス野戰防疫部ニテ研究ノ結果胆汁中ニ生菌ヲ  
証明セシメラ以テ「腸チフス」ニ於ケル如ク胆汁検査(寫眞)ニ要アリ

作戦部隊「コレ」患者ノ治療ニ要スル滅菌水ハ「アンプル」ヲ以テ補  
給スルト困難ナリ各衛生機關ニ滅菌水製造装置ヲ定數トシ  
テ充フルヲ要ス

消毒薬ハソノ現地ニ調製シカ可クナルヲ以テ平時ヨリ防疫部其他主  
ル衛生機關ニ携行セシムルヲ要ス

防疫醫官ハ「コレ」菌ノ各型及疫血情ヲ整備スルヲ要ス